可欠です。 広い枠組みの中での連携が不

ろです。 ルエンザ等の予防対策など、 事故やケガ、熱中症やインフ 様々な取組を行っているとこ ためのICTの導入、市民の の高度化に対応するための教 隊員に求められる知識や技術 ステムを構築するほか、救急 ていただくための広報活動、 皆様に救急車を適切に利用し 当局では、 救急活動の効率化を図る よりよい救急シ

討されています。 度を判定する体制の構築が検 高い傷病者に対して優先的に リアージのように、緊急性の 資源を投入するため、「家庭 で既に運用しているコールト 救急現場 電話相談」 また、国においても、 「119番通報」 の各段階で緊急 本市

られる社会を目指して、救急 き、すぐに救急車が駆けつけ 急」(図4) に注力していき なくても済むよう「予防 化に努めると共に、市民の皆 システム、救急体制の充実強 が救急車を必要としていると くと思われますが、 今後も救急要請は増加が続 救急車を要請し 大切な人

様が健康で、

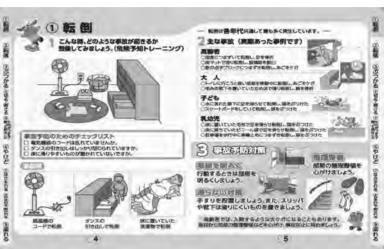


図4 予防救急の取組 (「ケガの予防対策」

金沢区長

林 琢己

ハマの政策力

は、若いころの私にとって、そのよう 揚感のようなものを感じました。 政策に仲間入りできたという高 画局(当時)勤務時において、初め 存在でした。そのためか、都市計 きた歴史があります。調査季報 指すため、独自の政策を実現して て執筆に参加した時は、市役所の な政策力を表現する、少し眩しい 平成17年、私は市民局に在職 横浜市は自立的な大都市を目

とめ、残したかったからです。横浜 どを記述しました。 データ類や、その後の課題・展望な 過をはじめ、改革の根拠となった の中でも先駆的に区役所への分権 市はそれ以前から、政令指定都市 節目を経験して、その考え方をま 設など、区役所機能強化の大きな 事務所の編入、区局連携事業の創 を進めてきたこともあり、その経 くり推進費の拡充、保育所や土木 157号)を執筆しました。区で し「新時代の区役所機能」(第 当時は、多くを伝えたいという

ともあり、とても思い出深く、仕 思いが強く、字数が超過し、事務 寄稿とは違う達成感もありまし 事の総仕上げができたという、初 局に迷惑をかけました。そんなこ 区の成功事例の共有化、分権と効 た。論文中今後の課題として、各

> き合い、実践と検証を行っていま 自治と協働など)を挙げました。 いれたビジョン(中学校地区単位の なり、図らずもこれらの課題と向 現在、私は区行政に携わることと 率性の両立、大都市制度を視野に

てきたはずです。 くの職員の人材育成にも貢献し 割も果たしています。さらには、多 めの貴重なアーカイブとしての役 マールとして、あるいは、政策のた あるとともに、仕事や研究のメルク 浜の政策を考えるための「場」で 割が見えてきました。それは、横 ような経験を経て調査季報の役 やや手前味噌な話ですが、この

横浜の政策力がさらに高まること 詰まった調査季報を、もっと活か です。だからこそ、多くのヒントが 自立した大都市を目指すには、市 は、素晴らしいことで、これからの 員など幅広く参加を促すことで、 す。今後は市民、学識者、若手職 しながら継続することが大切で ムを創造することが必要不可欠 高齢化のうねりのなかで、横浜が 報資産ではないでしょうか。少子 市政にとっても宝の山のような情 民とともに持続可能な社会システ 調査季報を50年間続けたこと

を願っています。

43 ■ 特集·政策五十年史